

第 63 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:2019 年 10 月 24 日 16:00～

開催場所:東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社



■出席者

湯川 れい子 委員長
富澤 一誠 委員
品田 英雄 委員
和合 治久 委員
長谷川 演 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正
取締役副社長 大田 安彦
コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀
コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄
コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 大森 有花
コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 北村 魁知

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 55 期通期経営成績について

売上高は既存事業は順調に推移したがエネルギー事業の未達が影響し未達成。営業利益は既存事業の堅調な推移やエネルギー事業の粗利改善により達成。経常利益・当期純利益も計画達成。

(2)キャッシュレス事業について(Uペイ)

ハンディ決済端末「U ペイ」/QRコード決済「U ペイ QR」をリリースした。店舗のニーズに合わせて売り分けを行う。

(3)消費増税への対応について(Uレジ)

消費増税・軽減税率導入の駆け込み需要により、9月はレジ新設件数 1,694件と大幅に増加し、半年前の3倍以上の新設件数になった。

(4)モバイル POS 市場売上 No.1 に

富士キメラ総研「キャッシュレス/コンタクトレス決済関連市場調査要覧 2019」(2019年7月発行)によると、モバイル POS 市場での当社の 2018年・2019年売上がシェア No.1 を獲得した。

(5)特別対応番組の放送について

ハロウィンやプロ野球、クリスマス等季節、時節柄、お客様からのご要望が多いコンテンツの放送対応を行った。

(6)追悼番組の放送について

7月12日～8月23日まで、7月6日に逝去されたブラジルの伝説的なボサノヴァ歌手、ギター奏者の「ジョアン・ジルベルト追悼特別番組」を放送した。

(7)『音空間デザインラボ』サイトオープンについて

USEN が行ってきた BGM や音に関する研究やアンケート調査、共同研究者、アドバイザーによるコラム記事を紹介する WEB サイトをオープンした。

(8)『With Music』の発行について

2019年9月、会報誌『With Music Vol.49 (2019年10月号)』を発行。業務店/個人宅のお客様にお届けした。

2. 審議課題

次世代を担う BGM コンテンツとは クラシック編

【対象番組】

■A-12 やさしいクラシック

■(新番組企画) デイタイム CLASSIC

■(新番組企画) ナイトタイム CLASSIC

3. 審議

【放送局】

現在、BGM サービスはデバイスや付随する機能が多様化している。そこで 56 期は今後のターゲット・利用シーンを見据え、「次世代を担う BGM コンテンツとは」を審議テーマとし、各回、USEN の 1 ジャンル内の代表的な番組に加え、「次世代のスタンダード」としていきいたい同ジャンル内での新番組企画を審議頂きたい。今回はこのテーマに則り、クラシック番組を審議頂く。

【審議委員】

クラシックが好きなので今回の番組デモを聴いて、とても楽しませてもらった。他の審議委員もそうだと思うが、番組担当者によって制作時の検討課題までしっかり考えられているので私が言えるのは単なる感想になってしまうと思う。

まず「A-12 やさしいクラシック」に関してだが、利用者や時間帯、効用の観点で番組を作っているのだと感じた。

「制作時の検討課題」に「有名楽曲(例えば、サン＝サーンス作曲「組曲「動物の謝肉祭」～白鳥」等)を番組に追加す

る際に、王道の演奏スタイルの作品と楽器編成を変えた作品のどちらを追加すべきでしょうか、「そもそも、BGM として有名で耳馴染みのある作品が流れることによってもたらされる印象はどういったものでしょうか」とある。確かに有名な曲の王道の演奏スタイルの作品を放送してしまうと耳に残ってしまうため、POPS で言うところのカヴァーのような作品を放送する方が他の楽曲との馴染みは良いと思う。

デモを聴いていて、3 拍子ワルツは落ち着かないと感じた。特にドヴォルザーク作曲「弦楽四重奏のための「糸杉」 B. 152 1. 分かっているとも、甘い望みを持って」は1 曲の中でテンポの上げ下げがあり、落ち着かなかった。DJ の選曲と一緒にだが、この楽曲を放送すると気分が上がるのか下がるのかということは意識をした方が良いと感じた。また、楽曲の BPM によって曲間が長い方が良い場合と短い方が良い場合があるということに今回気が付いた。それらの点を踏まえても『アダージョ・カラヤン』(※1995 年発売の CD) は名盤だと改めて感じ、クラシックの選曲において『アダージョ・カラヤン』に勝ることは非常に難しいだろうと感じた。

番組名にある「やさしい」という言葉について今回の場合は良いと思うが、元々「やさしい」という言葉を使うことには良し悪しがあり、誰に対してやさしいのか、やさしいとはどういう意味なのかというのは疑問に感じた。

次に「デイトタイム CLASSIC」と「ナイトタイム CLASSIC」だが、私の妻もクラシックが好きなので試しにデモの曲をランダムに流して、「デイトタイム CLASSIC」と「ナイトタイム CLASSIC」のどちらの曲かを当てるクイズをしたところ、全曲正解した。これは両者で大きな違いがあるということであるが、それは「ナイトタイム CLASSIC」の艶めかしさだ。

【放送局】

「ナイトタイム CLASSIC」はムーディーな雰囲気や salon classic の雰囲気を醸すような夜っぽさ、大人っぽさ、落ち着きのある番組として起案した。

【審議委員】

つまり「ナイトタイム CLASSIC」は寝る前に落ち着くために聴くものではなく、気分を上げるために聴くものであり、その艶めかしさはターゲットイメージに挙げられているレストランのディナータイムや、バーラウンジ、ジュエリー店といった空間に合っていると納得した。

企画背景に「既存のクラシック番組は飲食店やオフィス等、幅広い業種でご利用頂いているが、昨今ではお客様への番組のご案内、ご提案の際に時間帯ごとに番組を選んで欲しいとの要望が増えてきた」とあるが、「デイトタイム」や「ナイトタイム」といった時間で区切るというのは昔のラジオ局が生放送でやっていた時と同じ感覚で、そういう感覚が昔から変わらずあるというのは非常に良いと感じた。今はオンデマンドでラジオ番組も昼に夜の番組を、夜に昼の番組を聴きたい時もあるので、「デイトタイム」や「ナイトタイム」といった時間で区切って番組を作るのはそのような要望があるからかと思っていたが違った。

そして、恐らくショパンやリストといったロマン派は「ナイトタイム」向きということだろうと感じた。

【放送局】

やはりロマン派は「ナイトタイム」向きだと思う。

【審議委員】

詳しいわけではないので偉そうには言えないが、私自身バロックが好きというのもあってバロックのように淡々としていた方が BGM としては良いと思うので、ロマン派を BGM として扱うのは難しく感じる。とは言え、私と妻はデモを使ってクイズ

をして非常に盛り上がる事が出来た。

【放送局】

BGM に関する審議なので、感覚的な意見でも頂けると有難い。先程出た曲間の話は、曲によっては長くしたり短くしたりすべきということか。

【審議委員】

BPM が遅い曲が終わった後すぐに次の曲が始まると落ち着かない。普段 USEN を聴いている人は曲間まで気にして真剣に聴いていないと思うが、今回真剣に聴いてみたところ BPM が速い曲の後は曲間が短い方が、BPM が遅い曲の後は曲間が長い方が良いというリスナーとしての正義があると感じた。

【審議委員】

私はクラシックを普段聴いていないわけではないが門外漢なので、やはり敷居が高いものを感じてしまう。クラシックに詳しくない人はクラシックを聴く際、自分がその曲を知っているかどうかというのをひとつの指標として聴いていると思うので、クラシックの敷居を下げるためには導入として聴く人が知っている曲を織り交ぜて放送すれば良いのではないかと。導入が大事であるということは、先日有楽町マリオンで行われた朝日名人会でも感じた。現在唯一の人間国宝の落語家である柳家小三治師匠を当ててに久しぶりに落語を観たのだが、私が昔聞いていた落語とは違うものだと感じた。落語は演目の本題に入る前に枕という導入部分があり、そこでは本題とは全く関係の無い話をするのだが、柳家小三治師匠は高座に出てきて時事ネタを交えた枕を 30 分程延々としていて、いつ本題に入るのかと思っているうちにとても自然に本題に入った。入り方が分からない程に見事な話芸だったのでこれが名人芸かと思ひ非常に感動した。これをクラシックに当てはめて考えると、今回審議対象となっている番組で流す曲はクラシックの中から選曲していると思うが、導入としてクラシックではない曲も選曲することによってクラシックに詳しくない人も「自分はこの曲を知っている」と思うことが出来、敷居は自然と下がると思う。例えば、久石譲さんや葉加瀬太郎さん、服部克久さん、大島ミチルさん、服部隆之さん等クラシック系でインストゥルメンタルの曲を作っている方が居たり、数年前に『image』、『feel』といったコンピレーションアルバムが流行ったりしたこともあり、“クラシックをベースにしたポピュラー”を導入として織り交ぜることでクラシックと意識することなく聴くことが出来、敷居は下がると思う。私はクラシックをベースにしたものが現代のクラシックだと考えているので、このことを考慮しながら番組作りをしてもらえたら良いと思う。

【審議委員】

他の審議委員の皆さんはとても音楽に詳しく、デザインを生業としている私が一番音楽から遠い人間だと思っているのだが、BGM を聴くためのものか、流すためのものか、どのようなものとして捉えるかというのがいつも悩むところだ。これには結論はなく、どちらに寄せるかという話にしかならないと思うが、試しに美容室やスナック、バー等 15~16 人のオーナーに店内の BGM をどうしているか話を聞いてみた。私がデザインしたお店は良いオーディオを入れるので勿論 BGM にはこだわって欲しいとは思っているが、その中で BGM にこだわっているオーナーは 2 人程度と非常に少なく、残りのオーナーはほとんど BGM に興味が無く、興味のある社員が居ればその社員に任せ、居なければ適当なものを流しており、そういったオーナーが流しているのはだいたい USEN だ。BGM にこだわりの無い彼らが何故 BGM を流すかと言うと、何か聴きたい音楽があるというわけではなく店内に音が無いのは困るからなのだが、あるオーナーが「当たり障りの無いものをかけている」と言っており正しくその通りだと思った。当たり障りの無い曲を多く選ぶとなると一個人では大変なのでそういう

意味では、やはりただ流すための BGM も必要だと思う。USEN のディレクターは選曲のプロフェッショナルなのでどのような BGM でも作れると思うから、しっかり聴きたい人向けの番組とただ流したい人向けの番組というように番組を選ぶ基準があれば良いと思う。

「A-12 やさしいクラシック」の制作時の検討課題に「そもそも、BGM として有名で耳馴染みのある作品が流れることによってもたらされる印象はどういったものでしょうか」とあるが、それもターゲットによって異なると思う。音楽に興味が無くなんとなく音楽を流している人の中には、その音楽を聴いている自分が好きという程度の人がたくさん居ると思うし、そのような人たちは耳馴染みのある定番曲が流れた方が嬉しいだろう。一方で、音楽に詳しい人は知っている曲が流れるとその曲に紐づく昔の記憶や感情がフラッシュバックして気になってしまうだろうから定番曲は流れない方が良いだろう。BGM を黒子として目立たせないということと言うと、流れるとしてもストレートに聴かせない方が良いと思う。

作る側の作為やコンセプトをどれだけ明確にするかというのが問題だ。私もデザイナーなので、自分を表現したくなったり、気付いて欲しいところを入れたいくなったり作為を入れたいくなるが、公共になった時に入れて良いものか悩む。作為を明確にすればする程、勿論研ぎ澄まされるが、研ぎ澄まされ方が少し間違えると必ずしも聴く側が音楽や曲に興味があるわけではないので疲れてしまう。

人には物を判断する感覚である「VAK」、つまり目で判断する視覚と耳で判断する聴覚、体全体で判断する体感覚があるが、世の中の約 60% の人は目で判断して、耳で判断する人は約 30% も居ないと言われるが、この審議会の場にいる音・音楽に興味がある人たちはきっと耳でだけ判断する人たちだろうから、審議には私のような音楽から遠く、耳以外で判断する人が必要だろうとも思っている。一般に音楽に興味がある人よりも興味が無い人の方が多いだろうと思うので、音楽に興味が無い人をターゲットとする必要は無いのではないかとも思うが、やはり必要なだろう。

【放送局】

音楽に興味の無い人をターゲットにするからと言って当たり障りの無い選曲で良いとも思わない。

例えば、ラジオを聴いている人は皆同レベルで音楽に詳しいかというそうではなく、DJ が喋っている雰囲気が好きだったり、初めて触れる音楽にドキドキしたり、音楽好きのレベルというのは 10 年聴いている人と 1 年しか聴いていない人では違う。仰った通り、聴くための BGM か、流すための BGM かによって選曲は変わると思うが、用途に合わせて選んで頂けるように番組を編成することも必要だと思う。

【審議委員】

音楽に全く詳しくない人がターゲットだとすると、どのようにでもハンドリング出来るので面白いと思う。

【放送局】

ただ、音楽に詳しくない人程知識が無い分感覚で判断するので、音楽に詳しい人の感覚より研ぎ澄まされているかも知れない。

【審議委員】

最初にも言ったが選べないというのが一番のネックだと思うので、BGM をしっかり聴きたい人向けの番組、さらっと流したい人向けの番組があり、それが分かるメニューのようなものがあれば BGM を利用する人も選びやすいだろう。

【放送局】

突き詰めていくと1対1のオンデマンドのサービス・機能に行きつくのだろうが、それを1対nの放送でどこまで実現出来るかというのは難しいところだ。

【審議委員】

私の店もUSENを契約しているが、例えばアフターサービスで半年あるいは1年に1回どの番組を流しているかヒアリングをして、番組の提案をしてくれると嬉しい。

次に、「デイトタイム CLASSIC」と「ナイトタイム CLASSIC」だが、これらは1つのチャンネルで時間帯によって流し分けるのか。

【放送局】

そうではなく、それぞれを単独のチャンネルで放送するものとして企画している。

【審議委員】

なるほど。私も番組のネーミングは変えた方が良くと思う。「デイトタイム CLASSIC」はターゲットとしてレストランのランチタイムやデパ地下、デリコーナー等を想定しているとのこと。確かに飲食店のランチタイムはアップテンポの方が良いが、それ以外のカフェ等で流すにはテンポが速過ぎてお客様が落ち着けないので厳しいだろう。テンポが速ければ速い程高級感とは逆行していくと感じた。

「ナイトタイム CLASSIC」は上品で非常に良い。

【審議委員】

私は長年、意味のあるサウンドと健康を支える生体機能という観点で研究してきたので、今回もその観点で聴いた。

まず「A-12 やさしいクラシック」については、今日の自律神経のバランスを崩した現代人にとってこの番組を聴くことで自律神経が整い、心身がリラックスモードに導かれるのではないかと捉えた。好き嫌いに関係なく、人間という生き物が特定の音に反応するという事は様々な研究で分かっている。今回はターゲットとしているホテルロビーや金融機関、病院といった不特定多数が集まるような場所でこの番組を聴けば、好き嫌いに関係なく自律神経が整うかという観点で考えた。

制作者は、聴く人の「耳にやさしい」、つまり安心感を提供出来るものが良いのではないかと考え、「おもに室内楽や器楽曲作品、ピアノ・ソロ作品から選曲し、オーケストラ編成のダイナミックな曲調の作品は避けている」ということだが、シンフォニーのようなオーケストラも音と音が重なり合うと倍音が良く出て、高い周波数帯域の音が豊富に含まれ、それが脳の報酬系を刺激し、副交感神経が優位になるということで音響学的には意味がある。親しみやすさやノブールな上品さ、優雅さといったコンセプトにマッチしていればオーケストラ編成の作品を選んでも良いと思う。

制作時の検討課題に関してだが、まず「有名楽曲(例えば、サン＝サーンス作曲「組曲「動物の謝肉祭」～白鳥」等)を番組に追加する際に、王道の演奏スタイルの作品と楽器編成を変えた作品のどちらを追加すべきでしょうか」ということを挙げられているが、王道の演奏スタイルの作品で良いと思う。

次に、「そもそも、BGMとして有名で耳馴染みのある作品が流れることによってもたらされる印象はどういったものでしょうか」ということだが、病院や金融機関など高齢者が集まる場所で懐かしい曲を流すと安心感、郷愁感を与え、回想法に繋がり、人間のMCIと言われている軽度認知障害の予防に効果が期待出来るので非常に良いと思われる。

そして、テンポに関して、「現在はスロー～ミドルテンポの作品をシャッフルで放送しているが、昼間はミドルテンポを多めに、夜はスローテンポを多め等、時間帯ごとでの内容変化はどう思われますか」ということだが、時間帯ごとでテンポを変

えるのは良いと思う。昼間はアクティブに脳と心と体を使うため一般的には自律神経は活動的なモードになっており、これはつまり交感神経が優位な状態なのだが、その状態の時にはミドルテンポの曲を聴くと血圧が下がったり心拍が落ち着いたりするので、病院の待合室など利用空間を考えると少し緊張や不安を和らげるのは非常に良く、医学的なデータも取りやすくなるだろう。一方、夜は昼間の心身の疲れを取らなくてはならないのでスローテンポの曲を流すのが良い。

「デイトタイムCLASSIC」は、優雅さや明るさ、軽やかさ、落ち着き感といったワードがコンセプトに含まれているので、それが表現されているか評価した。昼間のひと時にコモードからアレグレット的なミドルテンポの曲を聴くと音響学的に非常に良いので、優雅さや明るさ、軽やかさには高いスコアを付けたが、落ち着き感には低いスコアを付けた。デイトタイムは活動的なモードに入っているのではより明るくてテンポの良い曲を聴くのが良いが、落ち着きたい時は少し重めの周波数の低い曲を聴くのが良いので、コンセプトから落ち着き感を除いた方が良いと感じた。

「ナイトタイムCLASSIC」は、スロー～ミドルテンポのピアノ作品を中心に選曲しているということでアダージョからアンダンテの曲が多かったように感じる。私はモーツァルトの研究しており、モーツァルトの作品は第二楽章がアンダンテのものが多いのだが、パラメーターを付けて実験を行うと副交感神経が刺激され優位になるのが良く分かる。コンセプトとしている透明感や気品さ、落ち着き感も出ていると感じた。引き続き、このような観点で選曲を行うと利用空間においては効果が発揮されるだろう。

【審議委員】

USEN には今回の審議対象になっている「A-12 やさしいクラシック」、「デイトタイム CLASSIC」、「ナイトタイム CLASSIC」以外にもクラシックジャンルだけで「B-67 こどもと聴くクラシック」、「C-23 クリニック向け Classic Compilation」、「H-16 カジュアル・クラシック」、「I-06 ライト・クラシック」、「J-32 金融機関向けクラシック」等たくさんの番組があるので、お客様が選びやすい番組名を付けることが大事だと思う。

私はあまりクラシックに詳しくないがコンサートはよく観に行くということもあり、「A-12 やさしいクラシック」の中にも知っている曲が何曲か含まれていたもので、「やさしい」というのは聴いて耳にやさしいということではなく、どちらかというとクラシックにあまり馴染みがない人が初めて聴くための入門にやさしいという意味だと捉えた。「はじめてのクラシック」にした方が分かりやすいと思った。内容から言うと「クリニック向け Classic Compilation」とか「ライト・クラシック」という番組名でも良いだろうし、幼稚園で流れても似合うと思った。

「デイトタイム CLASSIC」も内容から言えば「ライト・クラシック」でも良いとは思いますが、「デイトタイム CLASSIC」というタイトルは間違いではないと思う。

「ナイトタイム CLASSIC」は他の審議委員も言っていたように「ナイトタイム」と言うて眠る前に聴くヒーリング効果のあるものかと思ってしまうが、まだもうちょっと遊んでいたい、まだもうちょっとお喋りしていたい、まだもうちょっと飲んでいたいという感じで動きのある色っぽい選曲だったので、番組名も「恋人と聴くクラシック」、「デートタイム・クラシック」、「豊かな夜のクラシック」のような色っぽい名前を付けるのが良いと思う。

【放送局】

番組の選びやすさでは内容よりも番組名の方が大事ということか。

【審議委員】

番組を選ぶ際、「B-39 バロック」、「H-15 クラシック・ピアノ」等は分かりやすくて選びやすいが、「金融機関向けクラシック」、「美容室向けのクラシック」と言われても分かりづらいので、時間やシチュエーションで番組名を付けた方がお客様に

は親切だろうと思う。

【審議委員】

「I-06 ライト・クラシック」と「H-16 カジュアル・クラシック」はどう違うのか。

【審議委員】

「H-16 カジュアル・クラシック」は私も興味がある。

【放送局】

「H-16 カジュアル・クラシック」はクラシックの原曲をイージーリスニングにアレンジし、USEN のスタジオで収録した曲を放送している。

【審議委員】

一回聴けばお客様はどういう番組か分かるということか。

【放送局】

その通りだ。「I-06 ライト・クラシック」はテンポ感がミドル～アップテンポで明るい雰囲気の管楽器を中心とした番組というコンセプトになっており、内容は全く異なる。

【審議委員】

ちなみにクラシック番組がこれだけたくさんある中で、例えば IL DIVO のような、いわゆるクラシックではないがクラシックに分類されるような曲はどの番組で流れるのか。

【放送局】

そういうクロスオーバーの作品はクラシックジャンルではなく、ヒーリングジャンルの「D-53 ヒーリング・ヴォイス」で流している。

【審議委員】

私はクラシックの中にそういう曲を入れて欲しいと思う。他にも人気のあるアーティストが世界的に増えているので、そのようなアーティストの曲が聴ける番組が欲しい。

【放送局】

ヒーリングジャンルではなくクラシックジャンルの中に欲しいということか。

【審議委員】

全然ヒーリングではないと思う。

【審議委員】

最早彼らはアイドルではないか。

【放送局】

「D-53 ヒーリング・ヴォイス」で流れる曲は、そういったアーティストの曲の中でもヒーリングっぽい曲だけに絞っている。

【審議委員】

クラシックというと古い感じが印象としてあるが、私はクラシックを古いままにしておきたくない。クラシックは古典音楽ではなく、今生きているクラシックもある。そのようなものも積極的に見つけて選曲して欲しい。

【放送局】

今回の審議の目的にはクラシックの敷居を下げたいということもあった。これまでクラシックを BGM として使うのは高級感を演出したい敷居の高いお店や空間に限られていて、一般の飲食店や小売店ではあまり使われなかった。また、番組のラインナップを増やしても内容に差異の付けにくいジャンルでもあった。葉加瀬太郎さんや服部克久さんといったアーティストの楽曲もクロスオーバーの作品も当社としてはクラシックと呼ぶのも一つの方法だと思う。

【審議委員】

クラシックというだけで敷居が高く、選択肢から外れてしまう。落語も今の小三治師匠だけではなく、先代も、そのまた先代も様々な工夫をして進化していて、昔の落語とは全く違うものになっている。受け継いだまま語るだけではなく、いかに違うアレンジで出来るかということ等クラシックも同じではないだろうか。現代のクラシックというのは葉加瀬太郎さんや久石譲さんのような音大でクラシックを学んだ人たちの音楽だと思うので、いち早く取り入れた方が良いと思う。

【放送局】

確かに、落語でも「古典」と「創作」がある。クラシックにもポピュラリティーの高い楽曲もあるし、現行の新しいクラシックが敷居を下げるかも知れないので取り入れたい。また、音楽配信事業を行う会社として永遠のテーマと認識しているのだが、クラシックは他のジャンルと違って有名曲か否かがはっきりしているものなので、聴くものなのか、流すもののかもよく検討する必要がある。

【審議委員】

知っている曲が流れると気分が上がるのだろうか。

【放送局】

知っている曲が流れた時の感情として、ポジティブな感情とネガティブな感情のどちらが強いのだろうか。

【審議委員】

クラシックに関して言うと、本当に詳しい人は多数ではなく、「はじめてのクラシック」で流れるような有名な曲を聴いて喜んでいる人たちが多いため、知っている曲が流れる方が垣根が無くなって、聴いてみようかという気になるかも知れない。

【放送局】

クラシックに限った話ではないが、そこはよく考えなくてはならないポイントだ。

今回の新番組企画に関して良かったのは時間帯で分けたことに対してネガティブな意見が無かったことであり、デイ・ナイト、アクティブ・リラックス等ある項目に関して相反する番組を作ることは悪いことではないと改めて思った。しかし今回の「ナイトタイム CLASSIC」が「ナイトタイム」と名前に付いているからといって寝るものではないといったように内容が分かりづらいものになっていたので名前の付け方は工夫しないといけないと感じた。

【審議委員】

とても色っぽい選曲なのでタイトルに「恋人たちの」と付くときれいに収まる。

【放送局】

朝や夜といった単なる時間帯による分け方ではなく、「ナイトタイム CLASSIC」の場合は「恋人たちのクラシック」と言った方がシチュエーションから想起して色っぽい選曲だと分かるかもしれない。

【審議委員】

「ナイトタイム CLASSIC」と言うと聴いていたら眠くなる番組だと思ってしまうが、実際に聴いたお客様は思っていたのと違って眠れないじゃないかと思ってしまう。

【放送局】

他社の音楽配信サービスでは「はじめての〇〇」というプレイリストは定番になってきている。番組名は言葉の使い方次第でもっと分かりやすくピンポイントに届けられる可能性がある。

新番組企画に関しては、まだ企画段階なのでコンセプトや選曲内容が固めきれておらずこれから検討を重ねていくが、今回のご意見を参考にさせて頂きながら制作したい。新番組としてリリースが決定した際は改めてご報告させて頂く。

【審議委員】

番組名に関してだが、「C-23 クリニック向け Classic Compilation」の「Classic Compilation」というのは個人的には違和感がある。他の番組もコンピレーションなのに、何故この番組だけ名前に「Compilation」と入っているのかと思った。

【審議委員】

聴取者側からすると番組がたくさんあり過ぎて分からないから、減らした方が良いと思う。「J-32 金融機関向けクラシック」も「D-46 イタリアン空間向けクラシック」も「B-50 室内楽／器楽曲」も番組名から内容が分からない。

【審議委員】

しかし、「〇〇向け」という名前の付け方をした方が、営業戦略的に意味があるのだろう。

【放送局】

その通りだ。例えば、「J-32 金融機関向けクラシック」なら金融機関の方が使いやすい。ただ一方で「〇〇向け」という番組名の付け方には、内容的にはそれ以外の小売店等でも使えるのにそこにしか使ってもらえないというリスクがある。ネー

ミシングでターゲットを絞ってしまうと、その他のニーズを狭めてしまうのではないかという危惧がある。また、本当にこんなにたくさんの番組が必要なのかというご意見もあるので、改めて考えたい。

クラシックはまだまだBGMとして発展する可能性のあるジャンルだと我々は思っている。クラシックを好きな方だけに聴いて頂くのではなく、クラシックに詳しくない方や若い方にも聴いて頂けるよう、番組ラインナップの見直しも含め、創意工夫して番組を制作していきたい。